

“いにしえのかわにし” 5

100年前の道路元標^{どうろげんびょう}

まず、「道路元標(どうろげんびょう)」とはなんですか。

道路元標とは、大正8年(1919)の旧道路法で各市町村に一つ置くことが定められたもので、当時の市町村の中心地や主要道路交差点に設置されました。

現在、川西市内には、2基の道路元標が残っています。その一つが「川西村道路元標」です。道路元標を置くことが定められた当時、現在の川西市域には「川西村」「多田村」「東谷村」の3つの村がありました。その一つ、川西村に設置されていた道路元標です。高さ60cmの角柱型のもので、川西小学校西側のJR踏切から少し西に行ったところの小さな交差点に今もあります。この地点は、伊丹から久代、加茂を経て火打、萩原を抜け西多田や多田神社へ行く道と池田から加茂を通り西宮へと行く道が交わる所で、当時は「辻」と呼ばれた地点でした。またその頃、この周辺には明治22年(1889)に誕生した「川西村」の戸長役場や川西小学校の前身の上東小学校などがあり、川西村の中心地であったと考えられます。



川西村道路元標



東谷村道路元標

もう一つの道路元標は、「東谷村道路元標」です。この道路元標は、平成24年2月にJA兵庫六甲東谷支店の東側に残る旧東谷村役場跡地の隣地で建物解体工事中に偶然発見されました。その昔、東谷村役場に接する形で建てられていたのでしょうか。長い年月の中で忘れ去られていた歴史がひとつ姿をあらわしました。現在は、役場跡の敷地の一角にひっそりと建てられています。大きさ、形とも川西村道路元標とほぼ同じで、規定された規格にのっとってつくり、法律に従って設置されていたことがわかります。

今、この二つの道路元標は、昔と変わらず道行く人をそっと見守っています。近くを通ることがありましたらぜひ見つけてください。

約100年前に設置された道路元標は今、その役割を終え、歴史の証人として川西の未来をいっしょに見守ってくれています。